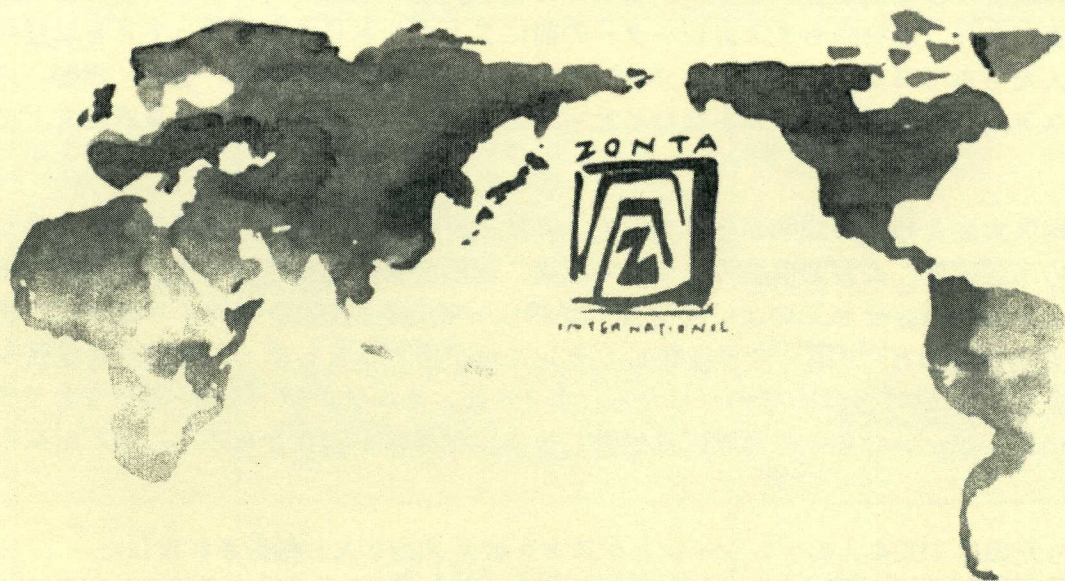




OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第42号(2016年9月)



巻頭言

2016 - 2018年の世界大会に参加して

新会長(2016 ~ 2018) 笠置 伸子



初めての例会が何とか終わり、ほっとしている間もなく、7月2日～6日までのニースの世界大会に参加いたしました。会長職も世界大会も、私にとっては、とても大役に思いました。

23年間のゾンタの活動は私の人生の中でとても大切な引き出しの一つです。会員相互のボランティア活動をとおしての友情の絆を大切に、大いに満足していました。会長をお引き受けした時は気が重かったのですが心の底から会長職を楽しもうと思直しました。出来る限り他クラブの行事に参加して、色々な情報を得てクラブ会員とともにボランティア活動ができればと願っております。そのような思いで世界大会に参加させて頂いて、沢山のゾンシャンとの出会い、ゾンシャン同志ならではの初対面の人の親密感、新しいゾンタへの見識、これからのボランティア活動の方向等考えることが様々に見えてきました。世界大会に参加した他クラブの過去の会長が、ゾンタに入会したら世界大会に行かないと、本当のゾンタの良さが味わえないと言われたのが初めて理解できました。

2016～2018年の目標はいろいろありますが、私はフランス大会で採択されたアドボカシーを引き続き行うということと、次期のリーダーを育てることに関心を持ちました。

国際から各クラブに至るまで同じ課題に向かって前進していくという連帯感が必要だとも思いました。全ての問題を会員一人一人が自覚して行動していくことが、今後のゾンタの発展につながるものだと思います。やはり世界大会に参加しなければこの様な考えには至らなかったと思います。中々、世界大会に行くのは難しいことですが、国内の地区大会、エリアミーティングなどは、パスポートなしで参加できます。私自身、今まで気付かなかった事で偉そうなことを書いて恥ずかしいのですが、自分自身のページを広げるためにもゾンタの行事に参加することに努めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第63回国際ゾンタ世界大会 (ニース) に出席して

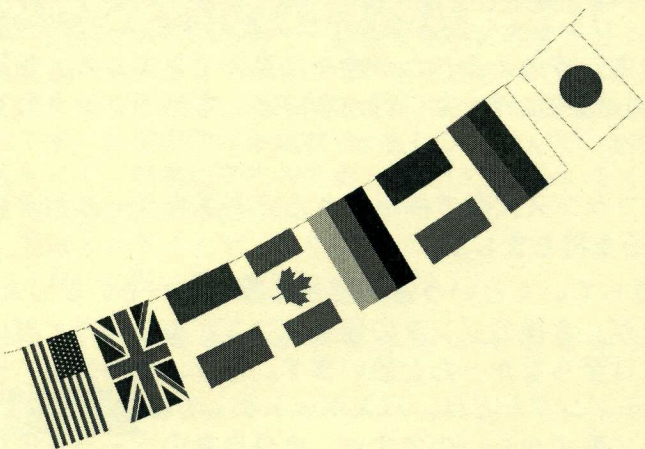
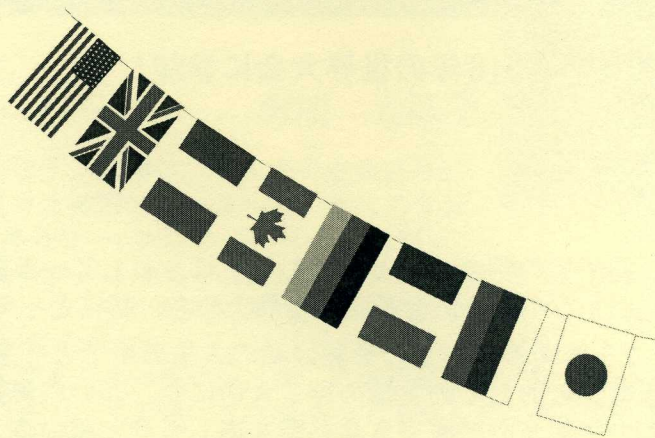
宮本 典子



ニースはフランス有数の観光地で、ニース市はフランスで5番目、ニースの空港はパリのシャルルドゴール空港に次ぐ大きな空港ときき、最近のテロの多い世界情勢に標的とならないか不安でした。しかし町中は平和で沢山の人がゆきかかっていました。会場ではまず入場に登録証のチェック、持ち物検査、空港と同じボディ検査があり、建物内もエスカレーターの前に二人づつおじさんが立ってさらに登録証をチェック。でもその人たちもニコニコしてハロー、サンキュー、会場は女性で一杯、金髪、黒髪、スカーフ。民族衣装の大きなアフリカ女性やスマートなハイヒールのスーツ姿、肌もあらわな夏衣装などでごった返していました。

7月2日は地区大会と投票の説明がありました。7月3日、開会・国旗入場式で始まりました。入場はゾンタ始まりの米国国旗、大会開催国のフランス国旗、国際会長の出身地スペインとデンマークで、続いて国歌が演奏されました。そしていよいよフラッグパレードです。1919年アメリカでゾンタが設立されてからこれまでの参加国67カ国・今年は新しくモンゴルが加わりました・の国旗が各地区の代表に掲げられて入場しました。私は、1998年のパリから、ホノルル、メルボルン、ニューヨークとフラッグパレードは経験していますが、いつもこの場面には感動します。世界が平和だからこそこれが出来ると思うと涙がでます。

この日集まったのは1924人のゾンシャンとゲストを加え2281人と報告されました。



三林京子 上方芸能を語る

田中 茂美



日時：平成28年5月22日（日）11時30分開演

場所：花外楼 北浜本店

本年は、久しぶりに講演とお食事の会を開催することになりました。約1年前からの企画で、会場は大阪を代表する175年の歴史を誇る『花外楼 本店』にて真新しいお座敷で、女優・噺家・大学教員として上方芸能の伝承を牽引していらっしゃる、三林京子様にご講演をいただき、その後、花外楼さまの伝統に育まれた美味なるランチをいただく計画をいたしました。開催に当たっては、当クラブチャーターメンバーでもある花外楼様の徳光正子様にご尽力を賜りました。

- 1) ご紹介 三林京子様は昭和45年芸術座「女坂」で初舞台、昭和50年にはNHK大河ドラマ「元禄太平記」でTVデビューをされました。噺家としては平成9年に桂米朝師匠より「桂すずめ」の名をいただき、現在は大阪芸術大学短期大学部メディア芸術学科で専任教授を務めていらっしゃいます。お父様は文楽・人間国宝 桐竹勘十郎様です。
- 2) 講演内容 上方文化が近年になって廃れつつある一因として、花柳界が無くなった事が大きい。新地は今や、安価な飲食店が増え、かつての面影が無い。芸子がほぼ絶滅に近い状態となったのは、しんどい事をしたくない若い人が増え芸を継ぐ人が減りなり手が無いのが現状です。芸事は厳しく、歌舞伎・文楽も縮小傾向にあり、料亭も閉めるところが増えた。伝統が理解されないと、後継も育たない。「姿勢を正す」事が日常から消えつつある。文化庁の助成金の運営基金も最近は西洋系芸術振興にシフトしており日本の伝統芸術に対しての基金が減額傾向にある。ロンドン・ベルギーに蜷川舞台公演が進出しているが、本当に良さを理解しようとするなら、日本文化を知り、自国文化・芸術と西洋文化・芸術と比較して初めてわかる事である。日本人は自分の国を知らない人が多過ぎる。また、伝統というものは時流に本質は流されないが、時代に応じて変遷をしていかなければ生き残れない物でもある。迎合する必要はないが、「合わせる」ということも大事で、頑な存在は廃れていく。千日前に常に人が並ぶ小さな天井屋がありますが、20年前・10年前・現在とでは、少しずつ塩分・だしを時代に合うよう工夫しているため人気が廃れない。絶えず企業努力をしている。元来、狂言も歌舞伎も400年前は異端であった。しかし、時代の変遷に合った努力をして継承をすることにより、伝統になった。大衆の支持が無ければ伝統の維持は難しい。先ごろ、大阪芸大メディア学科で「仮名手本忠臣蔵」AKO47として演劇発表会を企画した。スマホ生活で背筋の前彎していた20前後の若い学生が稽古になると、背筋を伸ばし、発声練習・演技演習をし、せりふも憶え、生き生きとしていた。若い人々が古典芸能を未知の新世界を切り開くがごとく楽しんでいく様子に伝統の継承に可能性の扉があることを感じた。上方芸能の世界も若い世代に門戸を開き、多くの人の支持を得る努力をすれば、伝統の継承も可能であり、若い人もきっかけがあれば、素晴らしさを理解し、支える力になると思う。日本の伝統への理解・支援は絶やしてはいけない。
- 3) 会食 12時半～ 目にも美しく、食べて幸福を感じる花外楼様の懐石料理がコースで饗されました。季節の厳選された食材が洗練されたお料理となって運ばれて参ります。前菜から水菓子（デザート）の終焉に至るまで、お客様・会員・同席頂いた三林様も大満足でした。
- 4) 結果 約80名の御臨席を賜り、盛会のうちにイベントは終了いたしました。ようやく、赤字財政から脱却できました。今期の各施設やNPOへの寄付が、十分ではありませんが、何とか賄える収支と後日伺いました。

以上、ご報告いたします。大阪Ⅱゾンタクラブの会員の皆様・ご出席いただいた皆様・ご講演をいただいた三林様、そして、甚大なご協力、ご支援を賜りました花外楼様に心より感謝しております。



午前の部

西村 博子



2016年5月28日(土)第8回エリアミーティングはウエスティン都ホテル京都にて、開催されました。今回のテーマは「女性が輝ける社会づくり」、参加総数は12クラブから161名、当クラブからは笠置、中塚、幡山、宮本、西村の会員5名参加、研鑽いたしました。今回も集約された一日のミーティングでした。

10:30 開会式では、神田エリアディレクターから、今日一日の学びを通して女性がさらにいろいろな分野で輝いていけるように、現在も提唱されている奉仕とアドボカシーを通じて、社会づくりに貢献していきましょうと激励の挨拶がありました。つぎに、3名のメモリアル会員の冥福を祈り、黙祷を捧げました。来賓挨拶では、豊田ガバナーから国際ゾントの目的と活動を、未来に向かって共に歩みをすすめたい、この2年間は地区全体としてアドボカシーを中心に取り組んできたので、さらに継続して勉強しクラブの活動を進めましょう、また2018年は横浜で国際大会が開催される、国際ゾントの一員であることを認識して、国際大会に出席しようと熱いメッセージがありました。

引き続き、ビジネスセッションは、議長選出、定足数確認後、今回のプログラム承認、エリアディレクターの今年度の活動報告が行われました。詳細には各クラブ訪問によるクラブ・会員状況、他団体の会合への参加、エリア通信発行、新クラブ発足認証式の参加、2014年7月～2016年4月エリア費収支中間報告、2015年度の国際ゾント基金、国外および国内奉仕基金についてのエリア3のまとめの報告がありました。

昼食懇談会前には、午後のワークショップの打合せが、各クラブ会長と地区の理事、委員と行われ、その間、他会員はゾントストアを楽しみました。その後、昼食懇談会に入り、テーブルごとの会食、各クラブの紹介が行われ、恒例の次回開催地によるデモンストレーションも行われました。

トレーニングセミナーといわれますエリアミーティング、同エリアのゾンシャンの方々と共に集えるのも楽しみです。今回のホスト役は、京都雅ゾントクラブ。細やかにてきぱき進行・運営して下さい、ありがとうございました。次回は2017年5月13日(土)奈良で行われます。ご一緒に参加しましょう。

ワークショップ「国際大会概要」

中塚 淳子



国際ゾント26地区ガバナー豊田由紀子さまの説明をうけました。まず最初にニース大会に向けて「参加会員全員で盛り上げよう」の意気込みを述べられました。

- ・ゾントの成功を祝う
- ・ゾントの意志決定の過程で意見を述べる
- ・ゾントの未来についてのワークショップに参加する
- ・リーダーシップトレーニングの機会から知識を得る
- ・美しい都市で国際交流を経験する

国際大会の主なプログラム

- ・ゲストスピーカーによる基調講演
- ・次期役員選挙
- ・バイローズ改定
- ・次期2年間の目標採択
- ・26地区ミーティングは7月2日(土)12:00～13:00を予定

国際ゾント2年間(2016～2018)の目標草案

<目標>

1. ゾントの奉仕プログラムは数々の使命を経験しそれを推進するものである
2. 国際ゾントは女性の権利を擁護するリーダー的組織である
3. 国際ゾントは世界中に活気ある会員を増強し、これを持続させる
4. 国際ゾントはその使命とビジョンを実現するために資金・資源を保持する
5. ゾントの百周年記念行事を世界に知らせる

その他国際大会参加者に必要なもの、書類、スケジュールが示されました。

次に2018年横浜コンベンション大会委員会組織表が示されました。

- ・施設ともてなし担当 委員長 山本蒔子、副委員長 豊田由紀子
- ・協賛と設営 担当 委員長 三宅定子、副委員長 上田トクエ

大阪Ⅱは協賛と設営部門の元国際会長・VIPプロトコルを京都Ⅱの会員とともに担当することになっています。豊田由紀子ガバナーの説明が立て板に水のごとく流暢で、襲い来る睡魔と闘いながらの参加でした。

基調講演

幡山 玲子



午後は、小宮悦子氏の「女性の活躍と推進～輝く女性を応援する～」と題した講演が行われた。小宮氏は、テレビ朝日の看板番組『ニュースステーション』で、長年久米宏氏と共に番組に携わってこられた方で、報道の現場で働いて来た半生を赤裸々に語られた。お生まれは東京タワーと同じ昭和33年で、『オールウェイズ3丁目の夕日』に出てくるような貧しいながらも幸せだったあの時代、夫婦げんかの絶えないご家庭の環境から、家庭や結婚というものに対して絶望し、男性に依存せず、「自分が自分の人生を支える」という思いを幼い頃から持たれ、退避場所として勉学に励んで来られたという。高校生の時、先が見えないことから受験勉強を一時止められたが、いろんなことを知ってから就職しようと思い返して、この世界は何かを知るために大学へ行こうと決意され、都立大学人文学部社会学科へ入学された。高校時代から始めたバンド活動に打ち込みながら、家庭教師や喫茶店のウエイトレス、化粧品のセールスなど様々なアルバイトをやられ、大学4年の時、たまたま希望していたメディア関係の就職活動の空いた時にテレビ朝日のアナウンサー試験に誘われて受験したところ採用されたという。テレビ朝日入社後リポーターやスポーツアナとして活躍され、1985年27歳の時に局内の公募オーディションに合格され、ニュースステーションのサブキャスターに就任、円高、バブル、ペレストロイカ、民主化等内外の激動期のニュースを、「中学生にもわかるニュース」をコンセプトに13年間番組に携わられた。その後40歳の時から始められた夕方のニュース番組のメインキャスターとして12年間、通算25年間超、報道一筋に歩まれてきた。この間2度の結婚と離婚を繰り返されたが、ニュースステーションに恋をしたとおっしゃるように仕事を優先され、出産の時期を逃したことは一つの後悔だが、自分が望んでいたのは今の自分であると言い切られた。

現在、小宮氏の歩んでこられた時代とは変わって、待機児童解消など、出産しても女性が働きやすい制度が整備されつつあり、女性活躍推進法もできたが、女性の管理職は10%くらいで、男性は昇進のためには長時間労働を強いられているが、女性はそのようにはやりたがらないし、また家事、育児で、できない状況にある。男性の家庭進出促進法のようなもので、男性が長時間労働のくびきから解放され、家庭、家族を大事にするようにしない限り、言い換えれば男性も輝く社会にならなければ、女性も輝けないと結ばれた。

移動例会

原谷苑の桜と祇園の和食

坂本 千代



2016年春の移動例会が4月17日(日)に行われました。京都市北区の原谷苑で桜を見て、祇園で昼食をいただくというものです。ところが今年は桜の開花が早かったうえ、当日未明から強い風と雨のあいにくのお天気で、桜はもう散っているだろうと予想していました。

朝9時過ぎにJR京都駅西改札口に12名(田中、幡山、笠置、佐野、笹岡、内藤、尼木、堀、久岡、西村、中塚、坂本)が集合。タクシーで北区の村岩農園内の原谷苑に向かいました。ここは、昭和32年頃に花好きの村岩農園所有者が、景色の良い丘に数百本の桜、紅葉などを植林したのが始まりだそうです。最初は親類・友人だけでお花見をしていたそうですが、人づてに評判が広まり、現在は桜と紅葉の季節に一般公開をしているのだそうです。苑内にはお食事処、売店などもあり、ゆっくり楽しみながらお花を見ることができます。桜の花の状態によって入園料が変わる(最高は2000円)そうですが、当日は1000円でした。最初のうちは小雨がぱらついて、人もまばらな苑内でしたが、まだまだ桜が残っていました。特にしだれ桜が見事でした。また、山吹、ぼけ、梅、芍薬などの花も咲いていて本当にすばらしい景色。苑内の茶店で外を眺めながらお薄と桜餅をいただきました。2時間ほどの散策でしたが、青空が戻り、ときおり花吹雪が舞う夢のような時間でした。



12時にまたタクシーに乗って、祇園の「なん波」という和食のお店に行きました。小さく、また見つけにくい所にあるのですが、ミシュランの1つ星に輝くお店だそうです。日本家屋の2階、狭いけれど快適なお部屋(椅子とテーブルの席で、貸し切り状態)でゆっくりと心行くまでご馳走をいただき、にぎやかにおしゃべりをして楽しい時を過ごしました。命の洗濯をした移動例会でした。

合同例会講演会

福本 敏子



2016年3月17日(木)リーガロイヤルホテル『牡丹の間』において、大阪Ⅰと大阪Ⅱの合同例会が開催され、社会福祉法人関西いのちの電話、事務局長の田尻悦子様が『こころの声に寄り添って～いのちの電話の現場から～』と題してご講演くださいました。

『いのちの電話』の活動は一人ひとりの「いのち」を大切にす市民活動として、1953年にロンドンに始まり、日本では1971年に東京に、関西では1973年に活動が開始されたそうです。活動の中心は研修を受けた相談員がボランティアで365日・24時間交代で電話相談に応じておられるとの事でした。年間の受信件数は2万数千件に達し自殺の訴えをはじめとするさまざまな悩みを傾聴されているそうです。悩みも重い内容が多く、中には長時間に及ぶ事もあるそうです。傾聴にあたっては相談者自身の内から発せられる言葉を待つように心がけていると述べられました。

このように日々、多くの相談に応じ自殺を思いとどまっていたり、大変な活動をなさっている『関西いのちの電話』にとって現在お困りの事は2点あり、相談員の育成と活動資金という事でした。田尻悦子様の講演を拝聴させていただき、私たちゾンタクラブとしては今後も、今まで同様、活動資金を寄付させていただき、細く長く活動を支えさせていただき重要性を再認識いたしました。

個人的な寄付も受け付けられているとの事ですので、サポートをよろしくお願いします。

京都Ⅰゾンタクラブ チャーター記念例会

チャーター記念講演を聴いて

辻 康子



2016年5月17日 京都Ⅰゾンタクラブ チャーター記念例会で当クラブの宮本典子会員が「ベトナムで女性の働く場を支援して」と題して講演されました。

宮本会員は現在81歳。日本や外国を元気に飛び回り、時間を惜しんで、いつも楽しそうにいろいろな活動を前向きにこなしておられますが、大陸的でエネルギッシュなお姿は生い立ちに大きく影響されておられるように思いました。お父様が満鉄に勤務されていた関係で、1935年5月中国東北部（満州）で生まれ、1947年（小学校5年生の時）に日本に帰国されました。終戦をはさんでご家族ともども大変ご苦労されたであろうことは想像に難くありません。

ゾンタに入会された時は特に社会奉仕を考えておられたわけではなかったようですが、ベトナムに支援を始めたのは大阪Ⅱゾンタクラブで大石芳野さんの講演を聴いたのがきっかけ。

宮本会員のお母様が遺された現金でベトナムに幼稚園の教室を建てたい、妹さんがミシンを贈りたい・・・との願いを大石さんから紹介されたフジ基金のト・ブ・ルーンさんが叶えてくださった。ト・ブ・ルーンさんからはベトナム戦争の後遺症、枯葉剤障害の子供に何かしてやってほしいと頼まれ、ベンチェを訪問。これが刺繍教室の始まりでした。

障害児学校を卒業した娘たちに刺繍を習う教室を作る。教材、先生の費用、食費など当時の日本円で年間約40万円必要でした。フジ基金の規約を整備してプロジェクトとしてたちあげられました。エイボン女性大賞を受賞された大石芳野さんは副賞の100万円のほとんどをベンチェプロジェクトに寄付して下さるなど、出会いが会いを生みここのようになったとのこと。ゾンタで原田泰治の絵など図柄の刺繍を依頼して販売するというやり方が定着してきています。

宮本会員はゾンタはグローバルに物事を進め、ルールを知り学ぶ機会、自分は何をなすべきか、地球規模で考えなくてはならない、ボランティアは人の為にあるのではなく、自分のためにあるのだ、ベトナムに関わって10年、たくさんものもらいました、と締めくくられました。

2015年度の活動

月	日	曜	例会場所	事業内容	その他
2015					
6	11	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	2014年度・決算報告・審議 2014年度・年間活動報告・各委員会報告 2015年度・年間活動計画協議・予算審議 エリアミーティング報告(8名参加) 西村会員 地区指名委員に立候補	6/1 国際会費(11.6.～12.5までの分)支払期限 6月 エリア費・地区費支払 フェニックス神戸、京都1行事に参加
7	9	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	2015年度・予算審議 2015年度年間活動計画承認	7/24 福井嶺南ゾントクラブ認証状伝達式1名参加 7/25 福井ゾントクラブ30周年記念式典2名参加
8	8	土	大阪梅田 エストエッジビル	納涼会 神戸本町別館「牡丹園」大阪梅田エスト店 5時開会(中華料理)	
9	10	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	卓話「国立大学初の経営学部と女子学生」 講師 神戸大学教授 南知恵子氏 クローズマン奨学金賞状授与式 神戸大学経営学部 坂口夏季さん	大阪II広報誌No.40発行
10	8	木	リーガロイヤルホテル 皇家龍鳳	通常例会 地区役員候補者投票について ローズデー行事について	地区大会10月22日～24日 京王プラザホテル 西村会員 地区指名委員に当選 参加者6名
11	12	木	リーガロイヤルホテル 吉兆	通常例会 地区大会報告(6名参加) 地区大会ゾントストア出店報告	11/29 銭太鼓奉仕活動 ひょうごセルフヘルプ支援 センター15周年式典に参加 親睦旅行11/21～23「大人の伊豆箱根」 参加者5名
12	12	土	コシモ・プリュス	忘年会 クラブイベントについて	
2016					
1	14	木	リーガロイヤルホテル 皇家龍鳳	新年例会 クラブイベント詳細発表 チラシ堀さんに依頼 窓口は笠置副会長	1/11 アメリア・イアハートの日
2	18	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	通常例会 イベント準備経過報告 クラブ指名委員選出(牛田、辻、中塚)	広報委員会 原稿作成方法についてお願い
3	17	土	リーガロイヤルホテル 牡丹の間	ローズデー記念講演会(大阪Iと合同) 「こころの声に寄り添って」 講師 いのちの電話事務局長田尻悦子氏	3/8 ゾントローズデー(国際女性の日) 3月 エリアに年間活動報告書提出 大阪II広報誌No.41発行
4	17	日	原谷苑 京都祇園なん波	移動例会 原谷苑お花見と会席料理を味わう	
5	12	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	総会:年間活動報告・委員会活動報告 次期役員選出結果報告 委員会構成報告 イベント参加者報告	5/22 クラブイベント「三林京子上方芸能を語る」 花外楼 11時開演 5/28 エリア3エリアミーティング 参加者5名



5月22日クラブイベントにて



中田 智恵海

ご挨拶

このたび、大阪Ⅱゾンタに入会させて頂くことになりました。

思い返せば1990年代に口唇口蓋裂児の親の会に、そして後にはセルフヘルプ支援センターへ、と昨年度まで合せて7年間の長きに亘って継続してご支援を頂きました。

当初は親の会の活動に対して支援を得るのは稀有なことでしたし、私自身も若く未熟でしたから、他者からのご理解を得られることは難しい状況でした。また、2000年にひょうごセルフヘルプ支援センターを設立しました後も、セルフヘルプグループについて説明しても理解を得ることは困難でした。

そんな状況の中で、貴会からのご支援は得たことは大きな励みとなり、大変有難いことでした。改めてお礼申し上げます。

その間、親の会の活動を契機に30歳で母校の大学院に戻って社会福祉を学び直して病院や保健所で実践し40歳で会の活動をしながら博士後期課程へと進んで学位を取りました。

後に大学の教員となりましたが、社会福祉が生活困窮者の援助を目的としながらも援助されるのは一部の限られた人に過ぎませんでした。当時、不登校やひきこもり、性的少数者、摂食障害といった生きづらさを抱える方々は多く居りましたが、個々人の問題として対処され、公的なサービスは得られず、加えて社会からの無理解に傷ついておられました。

そこで、私は既存の社会福祉制度やサービスの対象にはならない、生きることが困難な人々への援助が必要だと痛感し、制度や政策が今は整っていない、でも生きることさえ困難な人々への援助としてセルフヘルプ支援センターを立ち上げ、お仲間を繋いで支え合い、情報を交換して生きづらさを軽減しようと活動しています。

有難いことに少しずつですが、セルフヘルプの理解も進むようになりました。大学退職後の今、この活動に専念していますが、お楽しみもゾンタで経験させて頂きたいと思っています。

大阪Ⅱゾンタからご支援を頂いてきたこれまでと全く逆さまに今度は支援を提供する側になりました。新参者ですが年齢は古参者です。どうぞ、よろしく願いいたします。

.....やはり必要ですか？年齢71歳です。

ともだちの(わ)りレー・エッセイ



芳川 た江子

早いもので、ゾンタに入会して8年目に入ろうとしています。最初は、ゾンタの会がどうい
うものかわからずに入ったのですが、入ってみると色々な職種の方がおられ、それこそ友
達の輪が広がり楽しく過ごさせていただいています。特に奉仕チームのハンドベルと銭太鼓は、
練習も楽しく、その後の皆の持ち寄りの食事会やおやつ会も何よりの楽しみにしています。銭太鼓がどうい
うものかわからずチームに入り、実際に銭太鼓を手にしてビックリした記憶があります。筒の中に銭が入って
いて音が鳴るようになっているのです。今は、銭太鼓専門の先生に来てもらい、本格的に練習しています。

又、今年はどうとう還暦の年になってしまい、私の母校である小林聖心小・中・高校の同窓会の総会は、還
暦の学年が幹事となって総会を取り仕切ることになっています。その為、1年間かけて準備して、先日よう
やく大盛況にて終了することができました。私も同窓会本部の会計をしていた関係上、準備委員11人の中に入れ
られてしまい、毎月1回、委員で集まり企画を練りました。小林聖心女子学院の本館の校舎は、国の有形文化
財に登録されているので、建物を中心に歴史をひもどいてはどうかということになり、各時代のパートに分か
れて調べものをしていき、それを完成させてDVDにして総会当日の懇親会で流しました。もうじき100周年
を迎えようとしている母校ですが、DVDは先輩や後輩達からの評価も高く大成功に終わりホッとしているところ
です。私達の学年は総勢88名しかなくて、総会前日・当日・クラス会のどれかに参加してくれた人は63
名もいて、卒業以来初めて会ったという人もいるくらいたくさん同級生が集まってきて、本当にここでも
友達輪が広がりました。

還暦ということで、また初心にもどってこれからも色々な活動に参加させていただいて、友達輪を広げて
いきたいと思っています。

編集後記

今回で2014~2016年の広報紙編集はおしまいです。ゾンタの目標、女性のエンパワーメントを通して自分た
ちも成長する、そのような日々でした。みなさまたくさんのご支援有難うございました。 宮本 典子